



茨木神社
(イバラキジinja)

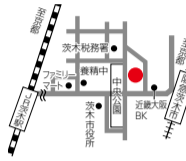


- 1.本殿は社殿建築を代表する流造。拝殿、幣殿とも檜皮葺だったが、現在は銅板葺に(どうばんぶき)
- 2.本殿の裏裏にある天石門別神社(あまのいわとわけのじんじや)は天手力男命(あめのたちからのおのみこと)が御祭神。社殿は神明造の1種
- 3.東門は元和3(1617)年に廃城となった、茨木城の御手門を移築したもの
- 4.豊臣秀吉の茶の湯に供されたという黒井の清水。現在も10月に大茶会が開催されている



茨木市周辺の広い地域から信仰を集める神社。その由緒は古く定かでないが、大同2(807)年に、坂上田村麻呂が現在の宮元町付近に創建した「天石門別神社(あまのいわとわけのじんじや)」がはじまりといわれ、平安時代の書物「延喜式(えんぎしき)」にも記載されている。楠木正成が茨木城を築城する際、農村から城下町へと発展するに従い現在の場所に移転。以来氏神として広く崇拜を集めるように。

以後、社伝などによれば、戦国時代に織田信長の牛頭天王(ごとうてんのう)が御祭神として、元和8(1622)年には牛頭天王、春日大神、八幡大神を主祭神とする本殿を建て、天石門別神社は奥宮として現在の姿に。茨木神社は明治時代の社格制度により郷社に指定されたが、旧氏子らの願いによって天石門別神社も郷社として認定。境内に郷社(こうしや)※地方にわたって崇敬される中心的神社が2社ある、全国でも珍しい神社としても知られている。



茨木市元町4-3
9時~17時(授与所)
元旦、2日、3日は~19時
参拝は自由
☎072-622-2346
<http://www.ibarakijinja.or.jp/>

北摂一帯の崇敬を集める
地域を象徴する古社

高槻赤大路の住宅街に佇む鴨神社は、その昔、奈良葛城王朝を支えた「鴨氏」が3世紀中期に建てたと言われている。祭神は大山積大神(おおやまつみおおかみ)

歴史を感じるロマンの古社



鴨神社(カモンジinja)



と、その両親と伝わる伊邪那岐大神(いざなぎのおおかみ)、伊邪那美大神(いざなみのおおかみ)、鴨族の祖先神、鴨御祖大神(かものみおおかみ)である。継体天皇達が埴輪を作

るため、技術力が高い渡来人を呼び寄せ、この地に暮らしていた鴨族と仲良く暮らしたことから、その祖先神を祀っている珍しい神社である。

- 1.祭事の前後に雨や雪が降っていても、行事の間だけはぴたっと止むことから、氏子さんたちでは「お天気の神様!」と言われている
- 2.平清盛の妹、建春門院(けんしゅんもんいん)が皇子誕生を祈願し無事に高倉天皇が誕生したことから、村人が子安天満宮社殿をつくったとされ、遠方から訪れる人もいほど安産の神としても有名
- 3.鴨林の名残が残る、立派なやまももの大木。一度雷が落ちたそうだがご神木だけあって今も葉を茂らせている

高槻市赤大路町42-3
☎072-692-2355



磯良神社(イソラジinja)

疣水神社(イボミズジinja)



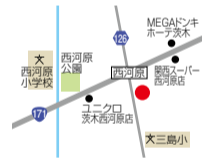
- 1.2.本殿の脇から中に入ると回廊があり、御百度参りはこの回廊を周って行う
- 3.疣や病気に御利益があると言われる御神水。神前に供えた後、持ち帰りできる
- 4.磯良大神は海の神様。神社の紋章であるホラ貝が寶銭箱に飾られている

磯良神社の祭神、磯良大神は九州の海神・安曇氏の祖神。もともと茨木市西河原の新屋坐天照御魂神社(にいやにますあまてるみたまじんじや)の境内社で、寛文9年(1669年)の移転に伴い分霊を祀ったのが始まり。境内の霊泉「玉の井」からは御神水(玉の水)が湧き出ている。

御神水が湧き出る疣水さん

神功皇后(じんぐうこうご)が戦に行く際この清水で顔を洗うと、たちまち疣だらけに。神の御加護と信じて敵地に向かうと、女性と侮られず勝利した。再び清水で顔を洗うと、元の美しい顔に戻ったことにより

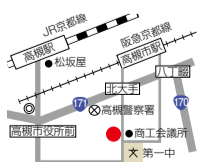
茨木市三島丘1-4-29
9時~16時(授与所)
参拝は自由
※大晦日は2時まで
P6台有り
☎072-622-4815



野見神社
(ノミジinja)

- 1.永井家藩主が江戸時代に奉納したという吊り灯笼が目を引く本殿。正月期間は奥の社が開かれる
- 2.境内社としては大きく豪華な「永井神社」。永井家代々の藩主を祀る
- 3.儀式殿では能が行われることも。現在は建て替え中で、3月に竣工予定
- 4.毎年4月に、健やかな成長を祈願して行われる赤ちゃんの「泣き相撲」が有名

大阪府高槻市
野見町6-6
9時~17時(授与所)
参拝は自由
P20台有り
☎072-675-1316



野見神社の起源は9世紀末。流行していた疫病の終息を願い、神託を受けて牛頭(ごとう)天王(てんわう)須佐之男命(すさのおのみこと)を祀ると疫病が治まったことが起源。日本で初めて相撲を取ったと言われる勝負の神、野見宿

悠久の歴史を物語る
高槻城の守り神

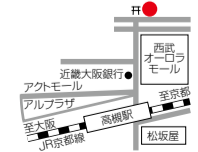
禰命(ののみこと)のすくねのみことと2柱の祭神が祀られている。かつては高槻城内に位置し、城を守護する神社としても崇敬された。一度はキリシタン大名高山右近によって壊されたが、その後の城主、永井直清により修築された。

千年の歴史を誇る
高槻の天神さん

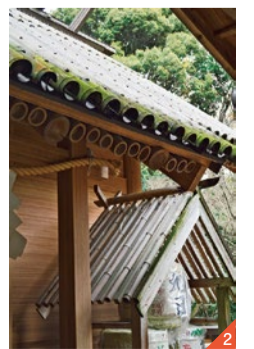
菅原道真をまつる上宮天満宮は、大宰府に次いで2番目に造られたという古い由緒をもつと言われている。古くは相撲の神と呼ばれる野見宿弥(のみのすくね)を祀った地だった。正暦4年(993)には、道真の霊を鎮めるため九州・大宰府に赴いた菅原為理が、帰途この地で急に牛車(うしぐるま)が動かなくなる異変にあつた。調べたところ野見宿弥は菅原氏の祖先ということ

が分かったため、ここに道真を祀ったのだと言われている。

高槻市天神町1-15-5
9時~18時(参拝時間)
12月31日は22時~翌2時
1月1日~3日は9時~17時
P30台有り
☎072-682-0025



上宮天満宮
(ジョウグウテンマングウ)



- 1.2.本殿は平成8年に焼失、現在は日本で初めてという竹で作られた珍しい新本殿に
- 3.埴輪や相撲の逸話が残る野見宿弥を祀る